





次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。(字数制限のある問題では、句読点、記号も一字と数えなさい。)

① 私たちは、毎日いろいろな種類の野菜を食べています。野菜は植物ですから、根や葉、茎、花、実などの器官からできています。例えば、キャベツやレタスなら葉の部分を食べていますし、トマトやナスなら実の部分を食べています。

② A、私たちが普段食べているダイコンの白い部分はどの器官なのでしょう。漢字で「大根」と書くくらいですから、根のように思うかもしれませんが、そんなにタンジユンではありません。

③ その疑問に答えるために、ダイコンの芽であるカイワレダイコンを見ながら考えてみます。カイワレダイコンは、双葉と根、その間に伸びた胚軸とよばれる茎から成り立っています。根の部分には、種から長く伸びた主根と、主根から生えている細いひげのような側根があります。

④ これに対して、私たちが食べるダイコンをよく見てみると、下のほうに細かい側根が付いたり、側根の付いていたアトに穴が空いていたりするのがわかります。ダイコンの下のほうは主根が太ってできているのです。いっぽう、ダイコンの上のほうを見ると、側根がなく、すべすべしています。この上の部分は、根ではなく胚軸が太ったものです。つまり、ダイコンの白い部分は、根と胚軸の二つの器官から成っているのです。

⑤ この二つの器官は、じつは味も違っています。なぜ、違っているのでしょうか。

⑥ 胚軸の部分は水分が多く、甘みがあるのが特徴です。胚軸は、地下の根で吸収した水分を地上の葉などに送り、葉で作られた糖分などの栄養分を根に送る役割をしているからです。

⑦ B、根の部分は辛いのが特徴です。ダイコンは

下に行くほど辛みが増していきます。ダイコンのいちばん上の部分と、いちばん下の部分を比較すると、下のほうが十倍も辛み成分が多いのです。ここには、③植物の知恵ともいえる理由がかくされています。

⑧ 根には、葉で作られた栄養分が豊富に運ばれてきます。これは、いづれ花をさかせる時期に使う大切な栄養分なので、土の中の虫に食べられては困ります。そこで、虫の害から身を守るため、辛み成分をたくわえているのです。ダイコンの辛み成分は、普段は細胞の中にありますが、虫にかじられて細胞が破壊されると化学反応を起こして、辛みを発揮するような仕組みになっています。C、たくさんの細胞が壊れるほど辛みが増すことになりました。

⑨ これらの特徴を活用して調理すると、ダイコンのさまざまな味を引き出すことができます。D、大根下ろしを作るときに、辛いのが好きな人は下の部分に向いていますし、辛いのが苦手な人は上の部分を使うと辛みの少ない大根下ろしを作ることができます。また、ダイコンを力強く直線的に下ろすと、細胞が破壊されて、より辛みが増します。逆に、円をえがくようにやさしく下ろせば、破壊される細胞が少なくなり、辛みが抑えられるのです。

⑩ このように、ダイコンの白い部分は異なる器官から成っていて、器官の働きによって味も違うのです。普段何気なく食べているダイコンも、植物として観察してみると興味深い発見があります。他の野菜はどうでしょうか。いろいろと調べてみると、これまで気づかなかった野菜の新しい魅力が見えてくるかもしれません。

(注) ①～⑩は段落番号である  
〈稲垣栄洋「ダイコンは大きな根？」より〉

1 線ア～エの漢字には読みがなをつけ、かたかなは漢字に直しなさい。 【知・技】

2 A、イ それでは ウ そのため エ いっぽう オ このように 【思・判・表】

3 線①「その疑問」とあるが、「その疑問」の答えとなる部分を文章中から十字で抜き出して書きなさい。 【思・判・表】

4 段落⑤は文章中でどのような働きをしているか。次から一つ選び、記号で答えなさい。 【思・判・表】

ア これまでの答えをまとめ、筆者の考えを示す働き  
イ 直前の段落内容を受け、新たな問いを示す働き  
ウ 直前の段落内容に対して、疑問点を挙げる働き  
エ 問いに対する答えの一部を示す働き

5 線②「甘みがあるのが特徴」とあるが、その理由が書かれている部分を二十八字で抜き出し、始めの五字を書きなさい。 【思・判・表】

6 線③「植物の知恵」とあるが、具体的にはダイコンのどのような知恵か。「栄養分」「虫」の二語を使って、「思・判・表」

7 辛みを抑えた大根下ろしの作り方を文章中の言葉を使って書きなさい。 【思・判・表】

8 段落⑩で筆者が伝えたいことは何か。「他の野菜」「新しい魅力」の二語を使って、三十字以上四十字以内で書きなさい。 【思・判・表】

9 線④「このように」とあるが、「この」は、どの段落を指しているか。次から一つ選び、記号で答えなさい。 【思・判・表】

10 筆者はこの文章においてどのような工夫をして、それはどのような効果をもたらしているか。適当でないものを次から一つ選び、記号で答えなさい。 【思・判・表】

ア 「そこで」「また」「つまり」など、接続する語句を的確に用いて本文のつながりを把握しやすくしている。  
イ 具体例を一切使用しないことで、植物について詳しくない人が自分でイメージできるように配慮している。  
ウ 問いや例示、答えなど段落の役割を明確にすることで、内容や構成を整理して捉えやすくしている。  
エ さまざまな野菜の例を挙げるところから本文を始めるところ。

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。(字数制限のある問題では、句読点、記号も一字と数えなさい。)

① 自分ではAだと思っていたものが、人からBともいえると指摘され、なるほどそうもいえると教えられた経験は多いことだろう。

② Iの図は「ルビンのつぼ」と題されたものである。よく見ると、この図から二種類の絵を見てとることができるはずだ。白い部分を中心に見ると、優勝カップのような形をしたつぼがくつきりと浮かび上がる。このとき、黒い部分は「バック」にすぎない。今度は逆に、黒い部分に注目してみる。すると、向き合っている二人の顔の影絵が見えてきて、白い部分はバックになってしまう。

③ この図の場合、つぼを中心に見ているときは、見えているはずの二人の顔が見えなくなり、二人の顔を中心に見ると、一瞬のうちに、目からつぼの絵が消えて去ってしまう。

④ このようなことは、日常生活の中でもよく経験する。今、公園の池に架かっている橋の辺りに目を向けているとしよう。すると、橋の向こうから一人の少女がやって来る。②はその少女に引きつけられるこのとき、橋や池など周辺のもの全て、単なる背景になってしまふ。カメラでいえば、あつという間に、ピントが少女に合わせられてしまうのである。ところが逆に、その橋の形がメズラしく、それに注目しているときは、その上を通る人などは背景になってしまふ。

⑤ 見るという働きには、④ 思いがけない一面がある。一瞬のうちに、中心に見るものを決めたり、それを変えたりすることができるのである。

I  II  III 

⑥ IIの図の場合はどうであろうか。ちょっとすまして図の奥の方を向いた若い女性の絵と見る人もいれば、毛皮のコートに顎をうずめたおばあさんの絵と見る人もいるだろう。A、他の絵と見る人もいるかもしれない。

⑦ だれでも、ひと目見て即座に、何かの絵と見ているはずだが、そうすると別の絵と見ることは難しい。若い女性の絵だと思った人には、おばあさんの絵は簡単には見えてこない。おばあさんの絵と見るためには、とりあえず、今見えている若い女性の絵を意識して捨て去らなければならない。

⑧ IIIの図を見てみよう。化粧台の前に座っている女性の絵が見えるであろう。ところがこの図も、もう一つの絵をかくしもっている。目を遠ざけてみよう。B、たちまちのうちに、この図はどくろをえがいた絵に変わってしまう。同じ図でも、近くから見れば、遠くから見れば、シユウレイな富士山も、近づくにつれて、岩石の露出した荒々しい姿に変わる。また、遠くから見ればきれいなビルも、近づいて見ると、ひび割れてすすけた壁面のビルだったりする。

⑨ このことは、なにも絵に限ったことではない。遠くから見れば、シユウレイな富士山も、近づくにつれて、岩石の露出した荒々しい姿に変わる。また、遠くから見ればきれいなビルも、近づいて見ると、ひび割れてすすけた壁面のビルだったりする。

⑩ 私たちは、ひと目見たときの印象に縛られ、一面のみを捉えて、その物の全てを知ったように思いがちである。C、一つの図でも風景でも、見方によって見えてくるものが違う。そこで、物を見るときには、ちょっと立ち止まって、他の見方を試してみようか。中心に見るものを変えたり、見るときの距離を変えたりすれば、その物の他の面に気づき、新しい発見の驚きや喜びを味わうことができるだろう。

(注) ①～⑩は段落番号である  
〈桑原茂夫「ちょっと立ち止まって」より〉

- 1 線ア⑦、⑧の漢字には読みがなをつけ、かたかなは漢字に直しなさい。【知・技】
- 2 A C にはあてはまる言葉を次から一つずつ選び、記号で答えなさい。【思判・表】
- ア すると イ しかし ウ あるいは エ つまり オ では
- 3 線①「バック」と同じ意味で使われている言葉を文章中から漢字二字で抜き出して書きなさい。【思判・表】
- 4 線②「目はその少女に引きつけられる」ことを言い換えている表現を文章中から十六字で抜き出して書きなさい。【思判・表】
- 5 線③「思いがけない一面」とはどのような一面か。「〜という一面。」につながるように文章中から三十五字で抜き出し、始めと終わりの五字を書きなさい。【思判・表】
- 6 線④「別の絵」と見るためにはどのようにすることが必要か。「絵」の一語を使って、十字以上二十字以内で書きなさい。【思判・表】
- 7 I～IIIの図にはどのような共通点があるか。次から一つ選び、記号で答えなさい。【思判・表】
- ア 目を遠ざけてみると全く違う絵に見える点 イ 見方によって、異なる絵に見える点
- ウ 見る人によって、すべて違う絵に見える点 エ どこを中心に見るかによって違う絵に見える点
- 8 ①、②、③の段落の役割を次から一つずつ選び、記号で答えなさい。【思判・表】
- ア 話題の提示 イ 例示 ウ 筆者の意見 エ 補足・説明
- 9 線⑤「他の見方を試してみようか」という問いについて、次の問いに答えなさい。【思判・表】
- (1) 筆者がこのように主張するのは私たちがどのようなことにおちいってしまうからか。それが説明されている一文を探し、始めの七字を抜き出して書きなさい。【思判・表】
- (2) 「他の見方」とはどのような見方か。文章中の言葉を使って、「〜見方」につながるように二つ書きなさい。【思判・表】
- (3) 筆者が「他の見方」をすすめているのはなぜか。文章中の言葉を使って、三十字以上四十字以内で書きなさい。【思判・表】

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。(字数制限のある問題では、句読点、記号も一字と数えなさい。)

十日間くらい入院したでしょうか。  
ヒロユキは死にました。  
暗い電気の下で、小さな小さな口に綿に含ませた水を飲ませた夜を、僕は忘れられません。泣きもせず、弟は静かに息をひきとりました。母と僕に見守られて、弟は死にました。病名はありません。栄養失調です……。  
死んだ弟を母がおんぶして、僕は片手にやかん、そして片手にヒロユキの身の回りのものを入れた小さなふろしき包みを持って、家に帰りました。  
② 白い乾いた一本道を、三人で山の村に向かって歩き続けました。バスがありませんでしたが、母は弟が死んでいるのではかの人に、遠慮したのでしよう、三里の道を歩きました。  
③ 空は高く高く青く澄んでいました。プーンプーンというB29の独特のエンジンの音がして、青空にきらつと機体が美しく輝いています。道にも畑にも、人影はありませんでした。歩いているのは三人だけです。  
母がときどきヒロユキの顔に飛んでくるはえを手ではらいながら、言いました。  
④ 「ヒロユキは幸せだった。母と兄とお医者さん、看護婦さんにとられて死んだのだから。クウシユウの爆撃で死ねば、みんなばらばらで死ぬから、もつとかわいそうだった。」  
家では祖母と妹が、泣いて待っていました。部屋を貸してくださいださっていた農家のおじいさんが、杉板をケズって、⑤ 小さな小さな棺を作っていてくださいました。弟はその小さな小さな棺に、母と僕の手でねかされました。小さな弟でしたが、棺が小さすぎて入りませんでした。  
母が、大きくなっていったんだね、とヒロユキのひざを曲げて棺に入れました。⑥ そのとき、母は初めて泣きました。父は、戦争に行つてすぐ生まれたヒロユキの顔を、とうとう見ないままでした。  
弟が死んで九日後の八月六日に、ヒロシマに原子爆弾が落とされました。その三日後にナガサキに……。そして、六日たった一九四五年八月十五日に戦争は終わりました。  
⑦ 僕はひもじかったことと、弟の死は一生忘れません。  
〈米倉齊加年「大人になれなかった弟たちに……」より〉

1 線ア～エの漢字には読みがなをつけ、かたかなは漢字に直しなさい。【知・技】

2 線イ～エの漢字には読みがなをつけ、かたかなは漢字に直しなさい。【知・技】

3 線ア～エの漢字には読みがなをつけ、かたかなは漢字に直しなさい。【知・技】

4 線ア～エの漢字には読みがなをつけ、かたかなは漢字に直しなさい。【知・技】

5 線ア～エの漢字には読みがなをつけ、かたかなは漢字に直しなさい。【知・技】

6 線ア～エの漢字には読みがなをつけ、かたかなは漢字に直しなさい。【知・技】

7 線ア～エの漢字には読みがなをつけ、かたかなは漢字に直しなさい。【知・技】

8 線ア～エの漢字には読みがなをつけ、かたかなは漢字に直しなさい。【知・技】

9 線ア～エの漢字には読みがなをつけ、かたかなは漢字に直しなさい。【知・技】

10 線ア～エの漢字には読みがなをつけ、かたかなは漢字に直しなさい。【知・技】

11 線ア～エの漢字には読みがなをつけ、かたかなは漢字に直しなさい。【知・技】

12 線ア～エの漢字には読みがなをつけ、かたかなは漢字に直しなさい。【知・技】

13 線ア～エの漢字には読みがなをつけ、かたかなは漢字に直しなさい。【知・技】

14 線ア～エの漢字には読みがなをつけ、かたかなは漢字に直しなさい。【知・技】

15 線ア～エの漢字には読みがなをつけ、かたかなは漢字に直しなさい。【知・技】

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。(字数制限のある問題では、句読点、記号も一字と数えなさい。)

銀木犀の花は甘い香りで、白く小さな星の形をしている。そして雪が降るように音もなく落ちてくる。去年の秋、夏実と二人で木の真下に立ち、花が散るのを長いこと見上げていた。気がつくと、地面が白い星形でいっぱいになっていった。これじゃふめない、これじゃもう動けない、と夏実は幹に体を寄せ、二人で木に閉じ込められた、そう言って笑った。

「ガタン！」  
びっくりした。① 去年のことをぼんやり思い出していたら、机にいきなり戸部君がぶつかってきた。

(中略)

学校からの帰り、少し回り道をして②銀木犀のある公園に立ち寄った。  
銀木犀は常緑樹だから一年中葉っぱがしげっている。それをきれいに丸く刈り込むので、木の下に入れば丸屋根の部屋のような。夏実と私はここが大好きで、二人だけの秘密基地と決めていた。ここにいれば大丈夫、どんなことから木が守ってくれる。そう信じていられた。

夕方に近くなっても日差しはまだ強い。木の下は陰になって涼しかった。

⑦ ソウジをしているおばさんが、草むしりの手を休めて話しかけてきた。

「いい木だねえ、こんな時期は④木陰になってくれて。けど春先は、葉っぱが落ちて案外⑤厄介なんだよ、

ソウジがさ。」

私は首をA。常緑樹は一年中葉っぱがしげっているはずなのに。

「え、葉っぱはずつと落ちないんじゃないんですか。」  
「まさか。どんどん古い葉っぱを落つこととして、その代わりに新しい葉っぱを生やすんだよ。そりゃそうさ。できなきゃあんた、いくら木だって生きていけないよ。」

④ ホウシの中の顔は暗くてよくわからなかったけれど、笑った歯だけは白く見えた。おばさんは、よいしょと言ってソウジ道具を抱えると公園の反対側に歩いていった。

私は真下に立って④銀木犀の木を見上げた。

⑤ かたむいた陽が葉っぱの間からちらちらと差し、半円球の宙にまたたく星みたいに光っていた。

⑥ ポケットからビニール袋を取り出した。花びらは小さく縮んで、もう色がすっかりあせている。

袋の口を開けて、星形の花を土の上にはらばらと落とすとした。

ここでいつかまた夏実と花を拾える日が来るかもしれない。それとも違うだけかと捨うかもしれない。あるいはそんなことはもうしないかもしれない。

どちらだっもいい。大丈夫、きっとなんとかやっついていける。

私は銀木犀の木の下をくぐって出た。

〈安東みきえ「星の花が降るころに」より〉

1 線ア⑦の漢字には読みがなをつけ、かたかなは漢字に直しなさい。 【知・技】

2 線①「去年のこと」とあるが、ここで「私」が思い出していることはどんなことだと考えられるか。最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。 【思・判・表】

ア 銀木犀の木に閉じ込められてしまっ嫌だったこと イ 銀木犀の花の香りは夏実の大好きな香りだったこと  
ウ 銀木犀の木の下で夏実と過ごして楽しかったこと エ 雪が降るように散る銀木犀の花が珍しかったこと

3 線②「銀木犀」の木の下空間のことを表した比喩を、文章中から十字で抜き出して書きなさい。 【思・判・表】

4 Aにあてはまる言葉を次から一つ選び、記号で答えなさい。 【思・判・表】

ア 縦に振った イ 横に振った ウ 長くした エ かしげた  
線③「古い葉っぱを、新しい葉っぱを生やす」とあるが、「私」はそれまで、銀木犀をどのような木だと考えていたか。それが分かる部分を本文中から十七字で探し、始めの三字を書きなさい。 【思・判・表】

6 線④「銀木犀の木」は、何を象徴しているか。あてはまるものを次から一つ選び、記号で答えなさい。 【思・判・表】

ア 周りの人々の愛情 イ おばさんへの感謝 ウ 夏実の優しさ エ 楽しかった思い出 【思・判・表】  
線⑤「かたむいた陽が光っていた」という一文には、「私」のどのような気持ち表れているか。あてはまるものを次から一つ選び、記号で答えなさい。 【思・判・表】

ア これからの新たな生活に対する希望 イ 公園に別れを告げようとする悲しみ  
ウ 夏実との楽しい思い出に対する寂しさ エ 新しく葉っぱを生やす銀木犀への感動

8 線⑥「ポケットから落とし」銀木犀の木の下をくぐって出た「私」は、これからどうしてこうと考えているか。「思い出」「前向き」の二語を使って、二十五字以上三十五字以内で「考えている。」につなげるように書きなさい。 【思・判・表】

9 線⑦「違うだけかと捨う」とはどういうことか。十五字以内で書きなさい。 【思・判・表】

筋道を立てて

・「言葉」をもつ鳥、シジュウカラ

1 年  
光 村

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。(字数制限のある問題では、句読点、記号も一字と数えなさい。)

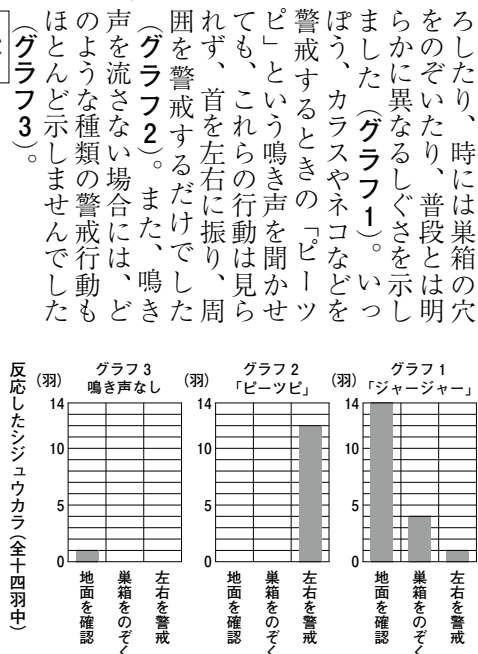
仮説

私は、これらの観察から、シジュウカラの「ジャージャー」という鳴き声が、警戒すべき対象としての「ヘビ」を意味する「単語」になっているのではないかと、<sup>①</sup>仮説を立てました。ここでの「単語」とは、「ヘビ」や「タカ」といった異なる意味を伝える一つ一つの鳴き声だと定義することにします。

**A** では、シジュウカラの「ジャージャー」という鳴き声がヘビを示す「単語」であるかどうかを調べるには、どうすればよいのでしょうか。鳴き声を発する状況を確認するのはもちろんですが、それだけでは意味を確かめることはできません。ヘビの存在をつがい相手に伝えるために「ジャージャー」と鳴いているのか、それとも単なる恐怖心から鳴き声を発しているのかが区別できないからです。そこで私は、鳴き声を聞いたシジュウカラが、どのように振る「マウ」のかをクワしく調べてみることにしました。もし「ジャージャー」という鳴き声がヘビを意味する「単語」であるならば、それを聞いたシジュウカラはヘビを警戒するようなしぐさを示すかもしれないと考えたのです。

**②** **あ** あらかじめ録音しておいた「ジャージャー」という鳴き声を基に、三分の長さの音声ファイルを作成しました。シジュウカラのつがいのうち一羽が、ヘビを見つけてくり返し「ジャージャー」と鳴いている状況をまねたのです。そして、その音声をヘビのいない状況でスピーカーから流して聞かせ、シジュウカラの行動変化を観察しました。

**B** シジュウカラは、「ジャージャー」という鳴き声を聞くと、巣箱がカかった木の周辺で地面をじっと見下



ろしたり、時には巣箱の穴をのぞいたり、普段とは明らかに異なるしぐさを示しました(グラフ1)。いっぽう、カラスやネコなどを警戒するときの「ピーツピ」という鳴き声を聞かせても、これらの行動は見られず、首を左右に振り、周囲を警戒するだけでした(グラフ2)。また、鳴き声を流さない場合には、どのような種類の警戒行動もほとんど示しませんでした(グラフ3)。

**C** ヘビは地面から木をはい上り、巣箱に侵入して卵やひなを襲います。親鳥が卵やひなを守るためには、ヘビをいち早く見つけ出し、追い払わなければなりません。ジャージャー」という鳴き声を聞いた地面や巣箱を確認しに行くことは、親鳥がヘビの居場所をつき止めるうえで大いに役立つと考えられます。

**③** **い** この実験結果から、シジュウカラの「ジャージャー」という鳴き声がヘビを示す「単語」であると、十分に主張できるでしょうか。もしかししたら、「ジャージャー」という鳴き声は、「地面や巣箱を確認しろ。」といった命令であり、それを聞いたシジュウカラはヘビの姿をイメージすることなく、それらの行動を取ったのかもしれない。

〈鈴木俊貴「言葉」をもつ鳥、シジュウカラ〉より

1 線⑦「あ」の漢字には読みがなをつけ、かたかなは漢字に直しなさい。

2 線⑧「単なる恐怖心から鳴き声を発している」を文節と単語に分け、その数を漢数字で答えなさい。【思判表】 【知技】

3 **あ**、**い** にあてはまる言葉を次から一つずつ選び、記号で答えなさい。【思判表】

4 線①「仮説」とあるが、この仮説が正しければ、「ジャージャー」という鳴き声を聞いたシジュウカラはどのような振るまいをすると筆者は考えているか。文章中から十六字で抜き出し、始めの五字を書きなさい。【思判表】

5 線②「鳴き声をうできません」とあるが、それはなぜか。次から一つ選び、記号で答えなさい。【思判表】

ア 鳴き声を発する状況を記録しただけでは、シジュウカラの行動変化を観察することができないから。【思判表】

イ ヘビの存在を伝える鳴き声は、本来「ヘビ」を意味する鳴き声ではないと考えられるから。【思判表】

ウ ヘビの存在を伝えているのか、単なる恐怖心から鳴き声を発しているのかが区別できないから。【思判表】

エ 鳴き声を発する状況を記録しても、それはカラスやネコを意味する鳴き声かもしれないから。【思判表】

6 線③「それ」が指す言葉は何か。文章中から十四字で抜き出し、始めの六字を書きなさい。【思判表】

7 線④「あらかじめ録音し作成しました」とあるが、これはどのような状況をまねたものか。次の文の□に入る言葉を五字以上十字以内で書きなさい。【思判表】

\*シジュウカラのつがいの一羽が、□状況。【思判表】

8 グラフ2から分かることは何か。四十五字以上五十五字以内で書きなさい。【思判表】

9 線⑤「ジャージャー」という鳴き声を聞いて地面や巣箱を確認しに行くこととあるが、なぜシジュウカラはそのような行動をとるのか。理由がわかる一文を文章中から抜き出し、始めの五字を書きなさい。【思判表】

10 この文章の構成について、**A**・**B**・**C**にあてはまる組み合わせを次から一つ選び、記号で答えなさい。【思判表】

- ア **A**…仮説の理由 **B**…結果 **C**…考察 **イ** **A**…仮説の理由 **B**…結果 **C**…考察
- ウ **A**…仮説の検証 **B**…理由 **C**…まとめ **エ** **A**…仮説の検証 **B**…結果 **C**…考察

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。(字数制限のある問題では、句読点、記号も一字と数えなさい。)

〔原文1〕

今は昔、竹取の翁といふものありけり。野山に  
今ではもう昔のことだが、竹取の翁とよばれる人がいた。野山に  
まじりて竹を取りつつ、よろづのことに使ひけり。  
分け入って竹を取っては、いろいろな物を作るのに使っていた。

名をば、さぬきのみやつことなむいひける。  
名前を、さぬきのみやつこといった。

その竹の中に、もと光る竹なむ一筋ありける。あや  
根元の光る竹が一本あった。

しがりて、寄りて見るに、筒の中光りたり。  
近寄って見ると、筒の中が光っている。

それを見れば、三寸ばかりなる人、いとうつくしうて  
それを見ると、(背丈)三寸ほどの人が、まことにかわいらしい様子で  
ゐたり。  
座っていた。

美しい娘に成長したかぐや姫は、五人の貴公子の求婚を  
かわし、ぜひ宮中に迎え入れたいという帝の求めも断る。  
そして、中秋の名月の夜、かぐや姫のもとに月から迎えるの  
使者がやってくる……。

いよいよ中秋の名月の夜、帝は、二千人の兵士を遣  
わして翁の家を守るようお命じになった。しかし、月  
の都の人々に対しては、兵士たちも全く無力であった。  
かぐや姫は、翁には着ていた衣を、帝には天人の持参

した不死の薬を、それぞれ手紙を添えて残し、人々の  
悲しみを後に天にノボっていつてしまった。  
帝は、かぐや姫から不死の薬をオクられていたが、  
かぐや姫のいないこの世にいつまでもとどまる気がし  
ない。そこで、  
「どの山が天に近いか。」  
とお尋ねになると、ある人が、駿河の国にある山が、  
都からも近く天にも近いとお返事申しあげたので、そ  
の山に使者をお遣わしになった。

〔原文2〕

御文、不死の薬の壺並べて、火をつけて燃やすべき  
(帝は)お手紙と、不死の薬の壺を並べて、火をつけて燃やすようにと  
よし仰せたまふ。  
ご命令になった。

そのよしうけたまはりて、士どもあまた具して  
その話(A)承って、(使者が)兵士たちを[ ]引き連れて  
山へ登りけるよりなむ、その山を「ふじの山」とは  
山に登ったということから、その山を「土に富む山」、つまり「ふじの山」と  
名づけたのである。

その煙、いまだ雲の中へ立ち上るとぞ、言ひ伝へたる。  
その煙(B)、「いまだに雲の中へ立ち上っている」と、言ひ伝えられている。

「竹取物語」より

1 線ア①の漢字には読みがなをつけ、かたかなは漢字に直しなさい。

2 線a②dを現代仮名遣いに直して、すべてひらがなで書きなさい。

3 線①「竹取の翁」とあるが、その名前を、原文中から抜き出して書きなさい。

4 線②「あやしがりて」について、次の問いに答えなさい。

(1) 「あやしがりて」を現代語訳して書きなさい。 【思判表】

(2) 何を見てそう思ったのか。それを指すものを原文中から五字で抜き出して書きなさい。 【知技】

5 「原文1」の場面で見えた光景とは、どのような光景か。「三寸」の一語を使って、「光景。」につながるよ  
うに、十五字以上二十五字以内で書きなさい。 【思判表】

6 線③「駿河の国にある山」とあるが、この山の名前を書きなさい。 【思判表】

7 線④「そのよし」の内容を「こと。」につながるように、二十五字以上三十五字以内で書きなさい。 【思判表】

8 線あ「寄りて見る」、線い「仰せたまふ」、線う「登りける」はそれぞれ誰がしたことか。次から一  
つずつ選び、記号で答えなさい。 【思判表】

ア 読者 イ 作者 ウ 翁 エ 天人 オ 士ども

9 現代語訳の(A)・(B)にあてはまる言葉をそれぞれひらがな一字で書きなさい。 【知技】

10 線⑤「士どもあまた具して」の「あまた」の現代語訳として適当なものを次から一つ選び、記号で答えな  
さい。 【知技】

ア ときどき イ ほとんど ウ たくさん エ わずかに

11 線⑥「ふじの山」とあるが、帝はなぜ、「ふじの山」でかぐや姫からもらったものを燃やすことにしたのか。  
その理由を次の二人の会話を踏まえて、「ことと考えたから。」につながるように、三十字以上四十字以内で書きな  
さい。 【思判表】

Aさん「天に近い山で手紙や薬を燃やしたいと帝は考えたんだね。」

Bさん「そうすれば、煙が天に届くと思ったのかもしれないね。」

Aさん「自分の思いを天にノボったかぐや姫に伝えたかったんだらうね。」





価値を見いだす

・「不便」の価値を見つめ直す

1 年  
光 村

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。(字数制限のある問題では、句読点、記号も一字と数えなさい。)

① こうして集めた事例を整理すると、「不便益」とは何かが浮かび上がってくる。まだ整理の途中の段階ではあるが、主には次のようなことが挙げられるだろう。

② A、物事を達成するのにかかる時間や道のりが多くなる分、発見や出会いの機会が増える。次に、体力や知力、技術力の維持や向上を促す。自分の体や頭を使うことが、自然と体力・知力・技術力の低下を防ぎ、それらを向上させるからだ。B、「不便」であることは、人間の意欲を向上させる効果もある。自分で考えたり工夫したりする余地があるからこそ、取り組むときのモチベーションが高まり、成しとげたときの達成感が大きくなるのだ。なお、一つの事例に複数の「不便益」が含まれることも少なくない。例えば、タクシーよりも徒歩のほうが発見や出会いの機会が増えるとともに、運動能力の低下を防ぐことにもなる。

③ これらの「不便益」は、「不便」だからこそ得られるものだ。「便利はよいこと」「不便は悪いこと」という固定観念にとらわれ、ただ無批判に「C」「なほうばかりを選んでいては、「D」の価値を見落としてしまう。さらに、「便利はよいこと」という考えの下、社会全体が「便利」だけを追求していけば、私たち一人一人は自分でどちらかを選ぶことすらできないまま、知らぬ間に、本来得られていた楽しさや喜

びが失われたり、自分の能力を発揮する機会が奪われたりすることになるだろう。

④ 誤解してほしくないのは、私は便利であることを否定し、昔の不便な生活に戻ろうと言っているわけでも、不便なことは全てすばらしいと考えているわけでもないということだ。「不便」だからこそ得られるよさがあることを認識し、それを生かして新しいデザインを創り出そうというのが「不便益」の考え方なのである。今、この考え方に賛同する仲間たちによって、自動車の運転支援の在り方や観光ツアーの仕掛け作りなど、さまざまな分野で新たな研究や提案がなされ始めている。

⑤ 「不便益」は、物事のデザインだけでなく、日常生活にも生きる発想だ。あなたの日々の生活の中で、「不便で嫌だな」「メンドウくさいな」と思っただけできた物事の中に、実は、新しい気づきや楽しみが隠れているかもしれない。これまでの常識とは異なる別の視点をもつことで、世界をもっと多様に見ることができるようになるはずだ。あなたの周りには、どんな「不便益」があるだろうか。もう一度、生活を見つめ直してみよう。

(注) ①～⑤は段落番号である  
〈川上浩司「『不便』の価値を見つめ直す」より〉

1 線⑦～⑩の漢字には読みがなをつけ、かたかなは漢字に直しなさい。

2 A・B にはあてはまる言葉を次から一つずつ選び、記号で答えなさい。

ア しかし イ つまり ウ まず エ また

3 線①「次のようなことが挙げられる」とあるが、「次のようなこと」とは何を指すか。文章中から三つ、それぞれア十三字、イ十八字、ウ十一字で抜き出し、始めの五字を書きなさい。 【思判表】

4 線②「固定観念」について、次の問いに答えなさい。 【思判表】  
(1) 「固定観念」とらわれていないと、どうなってしまうと筆者は述べているか。次から二つ選び、記号で答えなさい。

ア 「便利」が本当によいことか疑わしくなる。 【思判表】  
ウ 便利な社会が個人に、より豊かさをもたらす。 【思判表】  
オ 個人より社会の「便利」が優先されてしまう。 【思判表】  
イ 本来得られていた楽しさや喜びがなくなる。 【思判表】  
エ 自分の能力を発揮するチャンスが失われる。 【思判表】

(2) 「固定観念」と似た意味を表している言葉を、④段落以降から七字で抜き出して書きなさい。 【思判表】

5 C・D にはあてはまる言葉を、文章中からそれぞれ二字で抜き出して書きなさい。 【思判表】

6 線③「この考え方」とあるが、これはどのような考え方か。文章中の言葉を使って、「考え方。」につながらるように、三十字以上四十文字以内で書きなさい。 【思判表】

7 線④「さまざまな分野」とあるが、どのような分野が例として挙げられているか。文章中から二つ抜き出して書きなさい。 【思判表】

8 線⑤「『不便益』は、物事のデザインだけでなく、日常生活にも生きる発想だ」とあるが、このように筆者が述べているのはなぜか。「不便」「別の視点」の二語を使って、五十文字以上六十文字以内で書きなさい。 【思判表】

9 筆者が述べている内容として、最も適当なものを、次から選び、記号で答えなさい。 【思判表】  
ア 不便であることは、能力の発揮や向上につながるなど、全てにおいてよいことばかりである。 【思判表】  
イ 不便であることの中に発見や楽しみを見いだすことで、世界をより多様に見ることができ。 【思判表】  
ウ 不便であることは、人間の意欲や、能力を向上させる機会を失わせるので、同意はできない。 【思判表】  
エ 不便であることはすばらしいので、昔の不便な生活に戻ることが今の世の中には必要である。 【思判表】

自分を見つめる

・少年の日の思い出

1 年  
光 村

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。(字数制限のある問題では、句読点、記号も一字と数えなさい。)

「僕」は熱情的なちよりの収集家である。隣のエーミールという少年が珍しいちよりの持っていると聞き、見に行ったものの、つい盗みを犯してしまふ。我に返ったとき、ちよりはポケットの中でつぶれていた。すぐに「僕」はそれをエーミールの部屋にもどしたが、母親のすすめで謝罪にいくことにした。

二人は上にながっていった。彼はろうそくをつけた。僕は、だいなしになつたちよりが展翹板の上にのつているのを見た。エーミールがそれを繕うために努力した跡が認められた。壊れた羽は丹念に広げられ、ぬれた吸い取り紙の上に置かれてあつた。しかし、それは直すよしもなかつた。触角もやはりなくなつていた。そこで、それは僕がやつたのだ、と言ひ、詳しく話し、説明しようと試みた。

A、エーミールは、激したり、僕をどなりつけたりなどほしないで、低く「ちえつ。」と舌を鳴らし、しばらくじつと僕を見つめていたが、それから、「そうか、そうか、B君はそんなやつなんだな。」と言つた。

僕は、彼に、僕のおもちゃをみんなやる、と言つた。それでも、彼は冷淡に構え、依然僕をただ軽蔑的に見つめていたので、僕は、自分のちよりの収集を全部やる、と言つた。しかし、彼は、

「結構だよ。僕は、君の集めたやつはもう知つている。そのうえ、今日また、君がちよりをどんなに取り扱つてゐるか、ということを見るのができたさ。」と言つた。

その瞬間、僕は、すんでのところであいつの喉笛に飛びかかるところだつた。もうどうにもしようがなかつた。僕は悪漢だということに決まつてしまひ、エーミールは、まるで世界のおきてを代表でもするかのようになり、冷然と、正義を盾に、あなどるように僕の前に立つてゐた。彼は罵りさえしなかつた。ただ僕をナガめて、軽蔑してゐた。

そのとき、初めて僕は、一度起きたことは、もう償いのできないものだということを知つた。僕は立ち去つた。母が根掘り葉掘りきこうとしないで、僕にキスだけして、構わずにおいてくれたことをうれしく思つた。僕は、「そこにお入り。」と言われた。僕にとってはもう遅い時刻だつた。C、その前に、僕は、そつと食堂に行つて、大きなび色の厚紙の箱を取つてき、それを寝台の上のせ、ヤミの中で開いた。D、ちよりを一つ一つ取り出し、指で粉々に押しつぶしてしまつた。

〈ヘルマン・ヘッセ作 高橋健二訳  
「少年の日の思い出」より〉

1 線⑦〜⑩の漢字には読みがなをつけ、かたかなは漢字に直しなさい。

2 線「言つた」の主語になる一文節を抜き出して書きなさい。

3 A、Dにあてはまる言葉を次から一つずつ選び、記号で答えなさい。

ア また イ つまり ウ そして エ だが オ だから カ すると

4 線①「繕うために努力した」とあるが、努力の内容がわかる一文を文章中から抜き出し、始めの三字を書きなさい。 【思判・表】

5 線②「それは僕がやつたのだ」説明しようと試みた」とあるが、「僕」はエーミールにどのようなことをわかつてほしかつたのか。「盗み」「すぐに」「壊す」の三語を使って、三十五字以上四十五字以内で書きなさい。 【思判・表】

6 線③「君はそんなやつなんだな」とあるが、エーミールは、どのように言つたと考えられるか。最も適当なものを選び、記号で答えなさい。 【思判・表】

7 線④「君がちよりをどんなに取り扱つてゐるか」が表す意味を次から一つ選び、記号で答えなさい。 【思判・表】

ア ちよりの価値に全く興味がない、無欲な人間だ。 【思判・表】

ウ ちよりをすぐに壊してしまふ、不器用な人間だ。 【思判・表】

エ ちよりを大切にできない、つまらない人間だ。 【思判・表】

イ ちよりをむやみに集めようとする、欲深い人間だ。 【思判・表】

オ ちよりを大切にできない、つまらない人間だ。 【思判・表】

エ ちよりを大切にできない、つまらない人間だ。 【思判・表】

オ ちよりを大切にできない、つまらない人間だ。 【思判・表】

カ ちよりを大切にできない、つまらない人間だ。 【思判・表】

キ ちよりを大切にできない、つまらない人間だ。 【思判・表】

ク ちよりを大切にできない、つまらない人間だ。 【思判・表】

ケ ちよりを大切にできない、つまらない人間だ。 【思判・表】

コ ちよりを大切にできない、つまらない人間だ。 【思判・表】

カ ちよりを大切にできない、つまらない人間だ。 【思判・表】

キ ちよりを大切にできない、つまらない人間だ。 【思判・表】

ク ちよりを大切にできない、つまらない人間だ。 【思判・表】

ケ ちよりを大切にできない、つまらない人間だ。 【思判・表】

コ ちよりを大切にできない、つまらない人間だ。 【思判・表】

カ ちよりを大切にできない、つまらない人間だ。 【思判・表】





令6  
ちよつと立ち止まって  
1 年 組 番 氏 名

④ × 1			③ × 2		② × 5		④ × 1		③ × 6			② × 4	
9			8 <sup>思</sup> 7 <sup>思</sup>		6 <sup>思</sup>		5 <sup>思</sup>		4 <sup>思</sup> 3 <sup>思</sup>			2 <sup>思</sup> 1 <sup>知</sup>	
(3) <sup>思</sup>			(2) <sup>思</sup>		(1) <sup>思</sup>		1		始め			C A ウ ア	
30									20				
							2		}				
									終わり			B ㊦ ㊧	
							3		10				
			見方		見方								
40													
												という一面。	
												しく	

観点別	知・技	8
思・判・表		42

得点

※無断で複写・複製をすることは禁じます。

















令 6
シ ン シ ユ ン
1 年 組
番 名
氏 名
得 点

※無断で複写・複製をいかに禁じます。

	⑤ × 1	④	×	6	⑤ × 1	④ × 1	③ × 4				
	10 ⑤	9 ④	8 ④	7 ④	6 ④	5 ④	4 ④	3 ④	2 ④	1 ④	
(例) 僕				頭		顔	く	(例) シ		ウ	ア
は				を	イ	を	れ	ン			
あ				が		し	る	タ			
の	エ	ウ	エ	つ		か	と	な	イ		ま
小説				ん		め	思	ら		離	よ
が					オ	た	っ	、		れて	う
好き							た	好			
き							か	き		エ	①
な							ら	な			
んだ							。	理		心	だ
だ								由		配	ま
。								を			ま
								教			っ
								え			て
								て			

(順不同)(完答)

(採点基準) 「理由」の一語がなければ不可。理由を述べる文末表現でなければ二点減点。  
10 3 「あの小説」の一語がなければ不可。

15

30

ダイコンは大きな根?

1年組  
番号  
氏名

※無断で複写・複製をいかに禁じます。

得点

③ × 2		④ × 1			③ × 1	④ × 1			③ × 7			③ × 4												
10 <sup>思</sup>	9 <sup>思</sup>	8 <sup>思</sup>			7 <sup>思</sup>	6 <sup>思</sup>			5 <sup>思</sup>	4 <sup>思</sup>	3 <sup>思</sup>	2 <sup>思</sup>	1 <sup>知</sup>											
イ	エ	い	魅	(例)他	(例)ダイコンの上の部分を円を描くようにやさしく下ろす。	と	い	(例)根	葉	で	イ	根	A	ウ	ア									
		う	力	の		と	い	の				と	イ	ひ	か	く	単	純						
		こ	が	野		う	う	中				と	イ						B					
		と	見	菜				の				胚	イ						エ					
		。	え	も		35	、	栄				軸	ニ											
			て	調		知恵。	辛	養				の								ウ				
			く	べ			み	分				成									の			
			る	て			成	分				分										C		
			か	み			分	を				虫											エ	イ
			も	る			を	に				に											ウ	お
40	し	と		た	食	べ	D																	
	れ	、		く	べ	ら		器																
	な	新		わ	ら	れ			ア															
	い	し		え	れ	な				官														
	と	い		る	な																			

(採点基準) 「栄養分」「虫」の二語がなければ不可。「知恵」につながる形でなければ不可。

7 「上の部分」「円を描くように」「やさしく」という意味の三語がなければ不可。

8 「他の野菜」「新しい魅力」の二語がなければ不可。文末が「こと」でなければ二点減点。







令6
星の花が降るころに
1 年 組
番 名
氏 名
得 点

※無断で複写・複製をいかに禁じます。

	⑤ × 2			④ × 1	⑤ × 2		④ × 1	⑤ × 2		③ × 4	
9 (思)	8 (思)			7 (思)	6 (思)	5 (思)	4 (思)	3 (思)	2 (思)	1 (知)	
(例)私	う	し	(例)夏			常		丸		ウ	ア
に	と	い	実			緑		屋			
別		気	と								
の		持	の	ア	エ	樹	工	根	ウ	や	掃
友	35	ち	思							っ	除
達	考えている。	で	い							か	
が		前	出							い	
で		向	に								
き		き	こ							エ	①
る	25	に	だ								
こ		生	わ								
と		き	ら								
。		て	ず								
		い	、								
		こ	新								
15											

(採点基準)

- 8 「思い出」「前向き」の二語がなければ不可。  
 「〜考えている」につながる形でなければ不可。  
 9 文末が「こと」「でなければ二点減点。」

④ × 2		⑥ × 1				④ × 6			② × 6				
10 思	9 思	8 思				7 思	6 思	5 思	4 思	3 思	2 知	1 知	
工	親	る	り	た	(例)「	(例)へ	「	へ	あ	文節	ウ	ア	
	鳥	こ	、	シ	ピ	を	ビ	ウ	エ	(漢字指定)	掛	舞	
	が	と	周	ジ	ー	を	ビ	ウ	エ				
	卵	。	囲	ユ	ツ	見	を	を	工				
	や		を	ウ	ピ	つ	警	戒					
			警	カ	ー	け	ー						
			戒	ラ	と	て	ジ						
			す	は	い	鳴	ヤ		い				
			る	、	う	く							
			行	首	鳴	10							
		動	を	き									
		だ	左	声									
		け	右	を									
		を	に	聞									
		と	振	い									
		55								イ	八	いばしよ	詳
											(漢字指定)		

(採点基準)

2

〔文節〕単なる／恐怖心から／鳴き声を／発して／いる

〔単語〕単なる／恐怖心／から／鳴き声／を／発し／て／いる

8

文末が「こと。」でなければ二点減点。

④ × 1			③ × 1	② × 2	② × 3	④ × 1			② × 1	④ × 1	② × 1	③ × 1	② × 1	② × 8					
11			10 <sup>知</sup>	9 <sup>知</sup>	8 <sup>思</sup>	7 <sup>思</sup>			6 <sup>思</sup>	5 <sup>思</sup>	4	3 <sup>思</sup>	2 <sup>知</sup>	1 <sup>知</sup>					
が	か	(例)天	ウ	A	あ		の	(例)か	ふじの山(富士山)	座	(例)光	(2) <sup>思</sup>	(1) <sup>知</sup>	c	a	ウ	ア		
伝	ぐ	に					薬	ぐ		る	も	(例)	不思議に思っ						
わ	や	近					を	や		竹	と								
る	姫	い						、		の	光								
	に	山						火		筒	る								
	煙	で				い		を		の	る								
	が	燃						つ		中	竹								
	届	や			B	カ		け		に									
	き	せ						て		三									
	、	ば						燃		寸									
40		、					や	手		25	光景。								
	自	天			う		す	紙											
	分	に					と	と											
	の	い					い	不											
	思	る					う	死											
	い																		
30																			

(採点基準)

11752

ひらがなでなければ不可。  
 「三寸」の一語がなければ不可。「光景。」につながる形でなければ不可。  
 「こと。」につながる形でなければ不可。  
 「こと考えたから。」につながる形でなければ不可。

令6  
 今に生きる言葉  
 1年組番氏名  
 得点

※無断で複写・複製をいかに禁じます。

②×1	②×1	④×1				③×5		③×9				
10 <sup>思</sup>	9 <sup>知</sup>	8 <sup>思</sup>				7 <sup>思</sup>	6 <sup>思</sup>	5 <sup>思</sup>	4 <sup>知</sup>	3 <sup>知</sup>	2 <sup>知</sup>	1 <sup>知</sup>
(イ) (ウ) (ア)	3 2 1 4	話 の つ じ つ ま が 合 わ な い か ら 。	同 時 に 存 在 す る こ と は あ り え ず 、	ど ん な も の も つ き 通 さ な い 盾 と が	(例)ど んな も の も つ き 通 せ る 矛 と 、	(2) <sup>思</sup> 盾 と 矛 を 売 る 者	(1) <sup>思</sup> 盾 と 矛 を 売 る 者	I 盾 (漢字指定) II 矛 (漢字指定)	⑧ (例)つき通すとどうなるのか	④ (例)つき通せるものはない	ア いわく	① オ ② イ ③ ウ
(完答)	(完答)	50										
		60										

(採点基準)  
 3 ひらがなでなければ不可。  
 8 「矛」「盾」「つじつま」の三語がなければ不可。  
 理由を述べる文末表現でなければ二点減点。

「不便」の価値を見つめ直す

1年組番

氏名

得点

※無断で複写・複製を目的としたものを禁じます。

③×1	⑤ × 1			③ × 2	⑤ × 1	②×2	③ × 5		②×2	② × 4														
9 <sup>思</sup>	8 <sup>思</sup>			7 <sup>思</sup>	6 <sup>思</sup>	5 <sup>思</sup>	4 <sup>思</sup>	3 <sup>思</sup>	2 <sup>思</sup>	1 <sup>知</sup>														
イ	こ	点	こ	(例)不	二つ目	一つ目	出	を	(例)「	C	(2)	(1)	ウ	ア	A	ウ	ア							
	と	を	れ	便	観光ツアーの仕掛け作り	自動車の運転支援の在り方	そ	生	不	便利	こ	人	発	ウ	見	さん	どう							
	が	も	ま	だ			う	か	便	「	D	れ	間					見						
	で	つ	で	と			と	し	「	だ	不便	ま	の					や	出					
	50	き	こ	の			思	て	だ	か	「	で	意					出	会					
	る	と	常	っ			う	新	か	ら	こ	の	欲					会	イ					
	か	で	識	て			い	し	ら	こ	そ	常	識					体	力	B	⊕	⊖		
	ら	世	と	さ			40	い	こ	そ	得	工	「					力	や	工	面	倒	も	と
	。	界	は	け			考え方。	デ	そ	得	ら	「	知					力	知					
		を	異	る			こ	ザ	ら	れ	る	「	力					力	力					
		多	な	こ			と	イ	れ	る	よ	「	「					「	「					
		様	る	と			な	ン	を	創	り	「	「					「	「					
	に	別	な	く			を	創	り	さ	「	「	「					「						
	見	の	く	、	創	り	さ		「	「	「	「												
	る	視	、		り	さ			「	「	「	「												
60																								

(採点基準)

6 「考え方」につながる形でなければ不可。  
 8 「不便」「別の視点」の二語がなければ不可。理由を述べる文末表現でなければ二点減点。

④ × 1				③ × 4				④ × 1			③ × 5			③ × 5	
10				9	8	7	6	5			4	3	2	1	
思				思	思	思	思	思			思	思	知	知	
か	つ	け	(例)エ	一				な	に	(例)つ	壊	A		ウ	ア
な	ぶ	取	ー	度				か	戻	い	れ	カ			
か	す	ら	ミ	起	ウ	エ	イ	っ	し	盗	た	エー			
っ	こ	な	ー					た	に	み	た	ミ			
た	と	い	ル					と	行	を		B			
50	か	で	が					い	っ	し		イ			
	ら	自	「					う	た	て				眺	い
	分	、	僕					こ	し	し		C		め	ぜん
	自	自	「					と	、	ま		エ		て	
	身	分	の					と	壊	っ		D		間	の
	を	の	ち					。壊	す	た					の
	罰	ち	よ					つ	つ	が		ウ			の
	す	よ	う					も	も	、					し
	る	う	を					り	り	す					り
60	し	を	受					は	は	ぐ					
								45							

(採点基準)

10 5 「盗み」「すぐに」「壊す」の三語がなければ不可。文末が「こと。」でなければ二点減点。理由を述べる文末表現でなければ二点減点。